



齐藤周志代表取締役

# 山形の資源で未来をデザイン

キラリ山形

「稼ぐ力」で地域・観光振興

## おもてなし山形株式会社

2017年3月、民間事業者が協力し「おもてなし山形㈱」が設立された。地域の誇りと愛着を醸成し、地域の稼ぐ力を引き出す舵取り役として期待が掛かる。新型コロナウイルス感染症の影響著しい今年4月、代表取締役に就任した齊藤周志氏を訪問した。

ー会社設立の目的と取り組みについてうかがいます。

「山形、上山、天童の3市の魅力を発信し、旅行商品の企画・販売を手掛け、経済波及効果の大きい観光地域づくりを目的に設立された株式会社です。3市及び県内外の民間事業者が協力し、民間らしい経営手法による様々な地域・観光振興策を

通じて観光入込客数の増加と観光消費額の拡大を目指します」。  
「併せて山形の魅力をフェイスしたのが情報満載な予約サイト『VISIT YAMAGATA』です。山形県内の観光情報サイトは数多く存在し、各サイトが情報発信や旅行商品の紹介をしています。そうした情報・商品を旅行者がワンストップで収集でき、また、各組織による旅行商品の販売促進を目的に立ち上げました。親しみやすいサイトとなるよう、山形在住・出身者のライターが、観光スポットや飲食店で『見た・聞いた・触れた・感じた』といった観光者目線のリアルな記事を掲載しているほか、蔵王温泉・かみのやま温泉・天童温泉・山形市内のシティホテル・ペンション村などの宿泊施設や蔵王エリアの店舗、山形の食文化を全国に発信するため、飲食店の中から麺類提供施設を中心とした加盟店の登録を推進し、順次加盟店の拡大を図ります。なお、加盟店への登録に必要な様式は山形市の特許制度』は、納税者がその土地の特許権を返却します。地域事業者の収益増加につながるとともに、山形のことを文化の面からアピールすることになります」。

ーふるさと納税の返礼品として新たに「電子感謝券」をラインアップしました。

ー地域限定の電子ポイント（寄付額の3割）を返礼品として付与します。これまで返礼品を取り扱うことができなかつた飲食店や物産店などが加盟店として参加することで、ふるさと納税制度を活用できるようになりますし、寄付者が直接山形市を訪れてもらおうきっかけとなります。これまで返礼品を取り扱うことになります。今回の事態は、あらためて各種調査、報道で報じられる通り、観光地は過去に例を見ない苦境に立たされています。当社は『山形の資源で未来をデザイン』を経営理念に『人々が訪れる場所へ地域の皆さんと魅力を追求し、広げ、伝え、結ぶ』をビジョンに掲げています。今回の事態は、あらためて地域の人々が楽しむことのできる観光地づくりが第一歩であるということを教えてくださいました」。

ー加えて山形市中心市街地の隠れた魅力を発見し、賑わいのあるまち、住んで楽しいまちを創ること。つまり観光とまちづくりのコラボレーションをテーマに掲げています。人が集うところに楽しさや感動が生まれます。県外からの観光客が多く望めない中、足元を見つめ旅行商品を企画する機会です。愚直に前進してまいります」。



事業の仕組み BUSINESS MODEL



地域の稼ぐ力を引き出します

山形市  
ふるさと納税  
特設サイト



产品や名产品を“お礼品”としてもらえることから人気を集めています。フルーツ・米・肉・酒・加工品。

麺類・伝統的工芸品・日用品・特産品セットなど山形市の返礼品は約1000商品で、令和元年度は約15万6000件、総額約31億6000万円以上っています

「この仕組みを使って新型コロナウイルスの影響で、多くのお客様を迎えることが困難な状況が続いている山形交響楽団を支援するため『ガバメントクラウドファンディング』による寄付の募集を行っています。9月7日まで受け付けし目標額は7500万円。山形牛など特産品のほか、山響の演奏CDや演奏会の招待券を返礼します。地域事業者の収益増加につながるとともに、

新たに「電子感謝券」をラインアップしました。

ー地域限定の電子ポイント（寄付額の3割）を返礼品として付与します。これまで返礼品を取り扱うことになります。9月7日まで受け付けし目標額は7500万円。山形牛など特産品のほか、山響の演奏CDや演奏会の招待券を返礼します。地域事業者の収益増加につながるとともに、

ができるなかった飲食店や物産店などが加盟店として参加することで、ふるさと納税制度を活用できるようになりますし、寄付者が直接山形市を訪れてもらおうきっかけとなります。これまで返礼品を取り扱うことになります。今回の事態は、あらためて各種調査、報道で報じられる通り、観光地は過去に例を見ない苦境に立たされています。当社は『山形の資源で未来をデザイン』を経営理念に『人々が訪れる場所へ地域の皆さんと魅力を追求し、広げ、伝え、結ぶ』をビジョンに掲げています。今回の事態は、あらためて地域の人々が楽しむことのできる観光地づくりが第一歩であるということを教えてくれました」。

ー加えて山形市中心市街地の隠れた魅力を発見し、賑わいのあるまち、住んで楽しいまちを創ること。つまり観光とまちづくりのコラボレーションをテーマに掲げています。人が集うところに楽しさや感動が生まれます。県外からの観光客が多く望めない中、足元を見つめ旅行商品を企画する機会です。愚直に前進してまいります」。

「人が集うところに楽しさや感動が生まれます。県外からの観光客が多く望めない中、足元を見つめ旅行商品を企画する機会です。愚直に前進してまいります」。